

協働した取組みを展開したいと考えています。
次に、凶悪化する少年犯罪に対する厳正な対応についてお話しします。

少年法の一部改正により、刑事処分可能年齢の引き下げ、凶悪重大な事件を犯した少年の処分の在り方の見直し、裁定合議制の導入など事実認定手続の適正化のための措置が講じられ、重要犯罪や親の監護能力を超え、再犯を犯す少年については、きちんと逮捕し、早期に専門機関の手に送って、その少年にふさわしい治療を受けさせるという方針で臨んでおります。

次に少年犯罪の中には触法少年という問題があります。触法少年とは14歳未満で犯罪行為を行った少年で、どんな犯罪行為をしても逮捕されることはなく罪に問われない少年のことです。この触法少年が大阪は全国で最も多く、約2,400人で非行少年の2割弱を占めているのであります。触法少年への適切な対応が再非行を防止し、将来の少年犯罪の増加に歯止めをかけることから、警察では児童相談所等への通告を積極的に行うとともに、通告に至らない少年につきましても、継続的な指導を強化しているところであります。

また、少年の健全育成を図るためには少年の保護対策についても積極的に推進していく必要があります。福祉犯の取締りですが、福祉犯とは少年の健全やかな成長を阻害する犯罪をいい、警察本部では、福祉犯罪を専門に担当する捜査班を設置し、風俗犯罪、ハイテク犯罪を担当する部門と連携しつつ、児童買春、児童ポルノ事犯の取締りを強化しているところです。

もう一つの保護対策として、児童虐待事案への的確な対応があります。警察では、児童虐待問題を少年保護対策の最重要課題の一つとして位置付け、児童の生命及び身体を守るとともに、児童の精神的な立ち直りを支援する活動を積極的に取り組んでいます。警察本部には、平成12年11月に施行された「児童虐待防止法」に合わせて、児童虐待対策班(チャイルド・レスキュー・チーム)を設置して、24時間体制で相談を受け付ける児童虐待相談専用電話(チャイルド・レスキュー110番)も開設。被害児童の早期発見・保護に向けた取組みを強化しているところです。

松原署の少年係が7人に増員されても、管内に高校が3校、中学校が7校、小学校が15校という状況を見ると、本当に少年に係わるあらゆる人たちと緊密に連携し、取り組んでいくことが、少年の健全育

成への近道であると思います。少年非行防止活動が地域ぐるみの活動となるよう、皆様方のご支援・ご協力をお願いします。

最後に、松原警察署管内における街頭犯罪について、松原管内の平成13年中の刑法犯認知件数は4,506件であり、平成12年に比べ、738件(約19.6%)の増加となっております。特に、車上狙い、都品盗については、著しく増加し、本年上半期の車上ねらいは628件(+98件 18.5%)、都品盗は235件(+71件 43.3%)となっております。そのため、車上狙いの抑止対策として、各駐車場に啓発プレートを配布し、注意を呼びかけるとともに、防犯力メラなどの器具の設置を呼びかけている。部品盗対策としては新聞記事にもなりましたが、防犯ねじの無償取り付けを行っている。これら街頭犯罪抑止に関しては、自主防犯意識を持っていただくことが極めて重要で、どうか、車上狙い、部品盗が増加しているということをご認識して、家族や知人の方々に広く知らせるなど、街頭犯罪防止活動にご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(週報担当 寺下邦彦)

ニコニコ箱	SAA	上野忠義
・卓話の御礼をニコニコへ	……………	小林洋一様
・産業展、市民まつりご参加御礼	……………	落合
・会員誕生日内祝	……………	河村、武田、和田
・創立記念日内祝	……………	岩間、松谷、和田
・結婚記念日内祝	……………	中西
・奥様誕生日内祝	……………	石崎、泉本(雅)岡田(安)、桑田
・市民まつりに初めて参加	……………	岩間
・できました。会長、幹事の頑張り	……………	川西
・を、来年は?	……………	西田(幸)
・広島	……………	寺下
・の原爆を逃れてめでたく脱出の祝い(37才の時)	……………	二木
・岡田(安)会員にお世話になりました	……………	杉本(アト)
・市民まつりでRACの出店に協力、御礼	……………	和田
・上野会員ありがとうございました	……………	福田(正)
・市民まつりありがとうございました	……………	松本
・とちりました	……………	二木
・和田会員がおいかりで	……………	(各会員)
・お祝いの前にワインを飲んでしまいました	……………	
・早退お詫び	……………	

合計 92,000円

近隣クラブ例会変更のお知らせ

幹事 和田一義

ク ラ ブ	日	時	場	所	備	考
美 原 R C	8/16(金)	休会			定款第5条第1節により	

今週のプログラム

第1867回例会

＊ 日	時	平成14年8月20日(火曜日)
		12時30分～13時30分
＊ 司	会	(S A A)
＊ ソ	ン	グ
		(唱歌委員会)
		「日も風も星も」
＊ お 客 様 の 紹 介		(親睦委員会)
＊ 出 席 報 告		(出席委員会)
＊ 諸 報 告		(会長、幹事、各委員会)
＊ クラブ討論会(1)		クラブ奉仕 泉本雅彦会員
＊ 家 庭 集 会 (1)		クラブ奉仕担当 (岬 18：00～)

先週の例会では

第1866回例会

・ 日	時	8月 6日(火曜日)
・ お 客 様 の 紹 介		(二木親睦委員長)
		松原RAC 杉本孝子 様
・ 出 席 報 告		(松本出席委員長)
	会員数 54名	
出席免除会員数 22名	出席義務者数 32名	
□出席	10	32
■欠席	12	27
		5
	出席率	84.38%

7月23日	修正出席率	84.85%
7月30日	修正出席率	

次週以降のお知らせ

＊ 8月27日(火)

・卓話 長谷川文夫会員

・定例理事会(13：40～)

＊ 9月 3日(火)

・卓話 西山恵三会員

＊ 9月10日(火)

・卓話 奥田政典会員

＊ 9月17日(火)

・卓話 桑田正雄会員



松原市民まつり(8月3・4日)

会長の時間

会長 落合良生
8月3日の松原市民まつりに多数の会員のご参加をいただき有難うございました。また、ローターアクトの出店にはアクトの皆様、会員の皆様が汗だくでまつりを盛り上げていただいたと思います。有難うございました。和田幹事はたこせん専門で、次期の岩間幹事は後ろから扇風機の役割をしていただき、アクトのお尻だけを一生懸命仰いでいました。家庭でもこれだけの接待をお願いします。

今月は会員増強および拡大月間です。会員増強は、欠かすことの出来ない永久の課題です。組織は現状維持では衰退につながります。常に新陳代謝と増強が必要です。また、勤めて温かい友情と気配りによって退会防止に努めることも肝要だと思っています。

かつて会員増強炭火論を伺ったことがあります。それは「今赤々と燃えている多くの炭火が、火鉢に入っており周りを暖めている。しかし、そのままにしておけば、やがて火力も衰えてしまう。そこで新しい黒い炭を足してやれば、最初は煙を出すかもしれないが、すぐにその炭は赤々と燃え盛り、周りを暖めるようになる。」というものでした。結論としては、会員の減少をいかに食い止めることだと思います。そして、現状維持をまず目標にして会員増強に努めたいと思っています。

今月はまた、職業奉仕、情報、米山部門の各委員長会議があります。各委員長さんにはこの暑さの中でご苦労でございますがよろしくお願いします

幹事報告

- 幹事 和田一義
- 7月31日の理事会で休会届けの出てました萩田卓男会員の来年1月31日まで休会を承認しました。又、楠原会員の出席免除の申請も承認いたしました。
 - 松原中クラブとの今年度の合同例会の準備委員会を会長、吉川職業奉仕委員長、鶴山社会奉仕委員長と幹事の四人で結成し、中クラブと会合を持ってゆきます。
 - 昨年度の地区大会の人頭分担金が1500円返金になりましたので今年度の地区大会分担金徴収の時、1,500円を引きまして徴収します。
 - 昨年度のガバナー月信及び8月号ローターの友がレターケースに入っていますのでお持ち帰りください。
 - 岩間会員の携帯電話の番号が間違っていましたので訂正をお願いします。
 - 次週13日は定款第五条第一節により休会ですので間違いのないようにお願いします

委員会報告

会報委員会

委員長 岡田安司
先週の理事会で承認されました、カラーレーザープリンターが本日納品されました。なるべく早くカラー化への対応をするつもりですが、もうしばらくお待ちください。以上報告とさせていただきます。

職業奉仕委員会

委員長 吉川許司
8月3日(日)の職業奉仕委員長会議に出席しました。小島ガバナーの挨拶で倫理観をどう高めるかということで、今いろいろ問題になっている、狂牛病やラベルの張替え、雪印の問題、宗雄議員を始め政治化の問題、警察の問題と、悪いことは分かっているけど目先の事や自分のことが良ければ良い、他人であれば悪いと分かることでも自分のことになると分からなくなる。その中でもローターのメンバーが何人かいるだろうと言われ、倫理観を高めそういうことは決してしないようにおっしゃいました。

成川カウンセラーは4つのテストについて話されました。4つのテストを自分の立場に代えて作ってくださいということでした。

桃田職業奉仕委員長からは「職業奉仕はローターの金看板だから仕事を趣味にして社会のためにがんばってください」とのことばがありました。

社会奉仕委員会

副委員長 二木宰之
市民祭りには大変暑い中パレードに参加いただきありがとうございました
「中環をきれいにする日」への参加依頼が来ている件について再度出欠回覧をまわします。

RAC委員会

委員長 寺下邦彦
3、4日の市民祭りではRCの先生方にはお手伝いいただき誠にありがとうございました。
本日RACより杉本がお礼と報告に参っております。



RAC 杉本孝子
市民祭りではお手伝いいただいた先生方にお礼申し上げます。出店の売り上げは、11万6,890円でした。利益につきましては、全額市民祭り実行委員会へ寄付させていただきます。

卓話

「松原の少年非行情勢等」について
大阪府松原警察署 生活安全課長 警部 小林 洋一 様



本日は「少年非行防止対策」について犯罪発生状況などを踏まえてお話しをさせていただきます。
本年初頭、新聞等に大きく報じられたように、昨年の大阪の刑法犯認知件数は32万7,262件で、東京を抜いて全国一になりました。他の都道府県と比較しても、2位の東京が29万2,579件であり、近畿では兵庫県が2番目で12万9,197件と半数以下で、近畿地方の大阪を除く5府県の総数ですら27万81942件ということを見れば、この32万7,000件というのが如何に多いのかが分かるでしょう。

街頭犯罪と呼んでいる、ひったくり、路上強盗、車上ねらい、部品盗、オートバイ盗の合計が、2万7,684件で、この5罪種のみで全体の39パーセントを占めています。

昨年、大阪府警では成人、少年を含めて、3万3,458人を検挙しております。うち、少年の検挙は1万4,633人で、全体の43.7パーセントであるのに対し、街頭犯罪で検挙した少年は成人を含めた全体の80.8パーセントを占め、この刑法犯少年の検挙・補導人員を少年人口(6歳～19歳)千人当たりの人口比で見ますと、少年の被疑者は少年人口千人当たり11.8人で、成人の被疑者は(20歳以上)は2.7人と、少年は成人の4倍以上になっています。このことから、少年非行を抑止することが、街頭犯罪を減少させ、そして刑法犯全体を減らし、大阪の犯罪発生ワーストワンを返上しようとしています。

現在の少年非行は刑法犯少年の検挙・補導人員が8年連続全国第一位という現状や少年によるひったくり、鉄パイプを使用した路上強盗事件が多発するなど、少年犯罪の悪質・凶悪化の傾向は著しく、少年非行情勢は質・量ともに深刻な状況が続いているのであります。

一方、強制わいせつや児童買春・児童ポルノ事犯など少年が被害者となる犯罪も大幅に増加し、児童虐待が引き続き大きな社会問題になるなど、少年問題への対処が府下の治安対策を行う上で最も重要な要素の一つと言えます。

現在の少年非行の背景について申し上げますと、次の3つの要因が挙げられると思います。

- 少年自身の規範意識の低下
- 家庭における教育の低下
- 地域社会の少年に対する指導能力の低下

こうした背景が複雑に絡み合っており、現在の少年非行の背景になっているように思います。

これを踏まえて、少年問題に対処するための警察の役割について、少年問題というのは、係わる機関や人々は極めて広範囲であり、様々であるといえます。

1. 問題行動の早期認知と早期対応

平成13年中に検挙・補導された刑法犯少年のうち14.5%(2,119人)の者が過去に喫煙、飲酒、深夜徘徊等の不良行為で補導されており、特に、路上強盗では30.4%、ひったくりでは35.8%と極めて高い率を示しております。

前兆行動の一つである不良行為等の段階にある少年を早期に発見し、きめ細かな助言、指導を行っているところであります。

2. 少年事件の検挙・解決

平成13年中に検挙・補導された刑法犯少年のうち28.0%(4,091人)の者が過去に何らかの非行を犯しており、特に、路上強盗では69.0%、ひったくりでは70.4%が再犯少年ということです。少年に自己の犯した犯罪等の社会的意味、被害者の痛みや悲慘さを十分に理解させ、同じ過ちを繰り返さないための反省を促す取調べを進めることが大切であり、現在、警察では少年の立ち直りのための「健全育成型捜査」といったことを進めています。

3. 少年非行情勢等に関する情報発信

少年非行は、特に社会の状況や変化を敏感に反映したものであり、警察力にも自ずと限界があるという現実的な問題を踏まえ、関係機関・団体、地域住民等がそれぞれの役割りを果たしつつ一丸となって取り組んでいくことが何よりも重要だと思います。そのためには、少年非行等の実態をつぶさに知る立場にある警察が、これらの「生きた情報」を広く府民に発信しているところです。

4. 少年を取り巻く有害環境の浄化

少年を取り巻く環境は大きく変化しており、性を売り物とする営業の増加や、インターネットを始めとする有害情報の氾濫等を各種法令を多角的に適用し、少年の健全な育成を阻害する環境の浄化に向けた地域社会の取組みを一層促進する必要がありますと考えています。

次に、少年問題に関する当面する課題と取組みについて申し上げます。

この春に少年警察部門の体制が強化されています。具体的な取組みとしましては、非行少年グループの検挙・解体を強力に推進しているところです。

さらに非行少年グループからの離脱促進や加入防止といった取組みをはじめ、必要に応じて、少年院を退院した者、保護観察処分を受けた者に対しても、関係機関等と連携し、少年の社会復帰をはじめとする健全育成のための立ち直り支援を図っていかねばならないと考えています。中学校、高等学校における非行防止活動、教育委員会やPTA、児童相談所筆の関係機関・団体、少年補導員などの警察ボランティアや保護司等の民間ボランティアと一層緊密に連携して、地域ぐるみの